



早産核黄疸の運動障害

横地健治

1

吉村歩, 木部哲也, 横地健治 : Botulinum毒素療法を施行した脳性麻痺児にみられたos odontoideumによる頸髄症の1例.
脳と発達 46: 307-310, 2014.

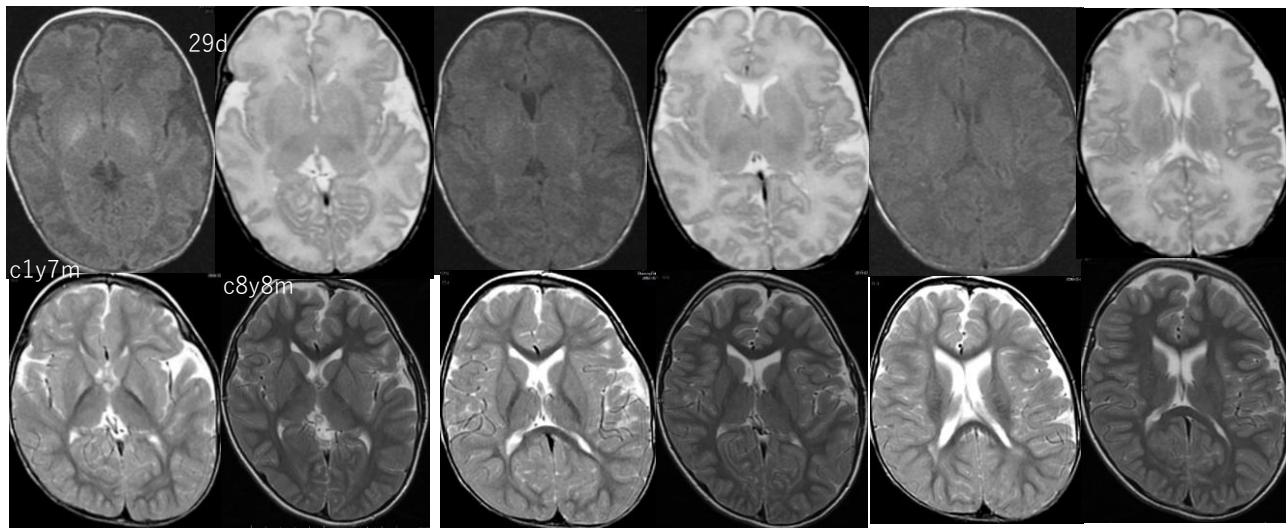
・32w ・新生児期腎不全 ・3y5m 後頸部Botox施注後 誤嚥性肺炎 持続的筋収縮の著減 ・発達年齢：1歳前半

・8y 両下肢弛緩からos odontoideumによる頸髄症の診断→手術



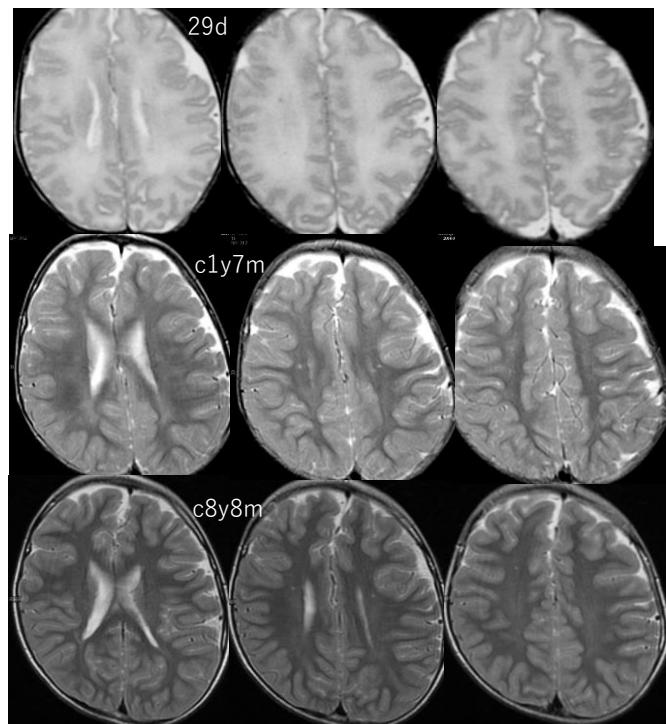
2

1

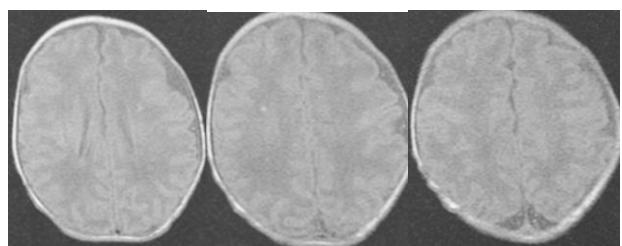


淡蒼球病変

3

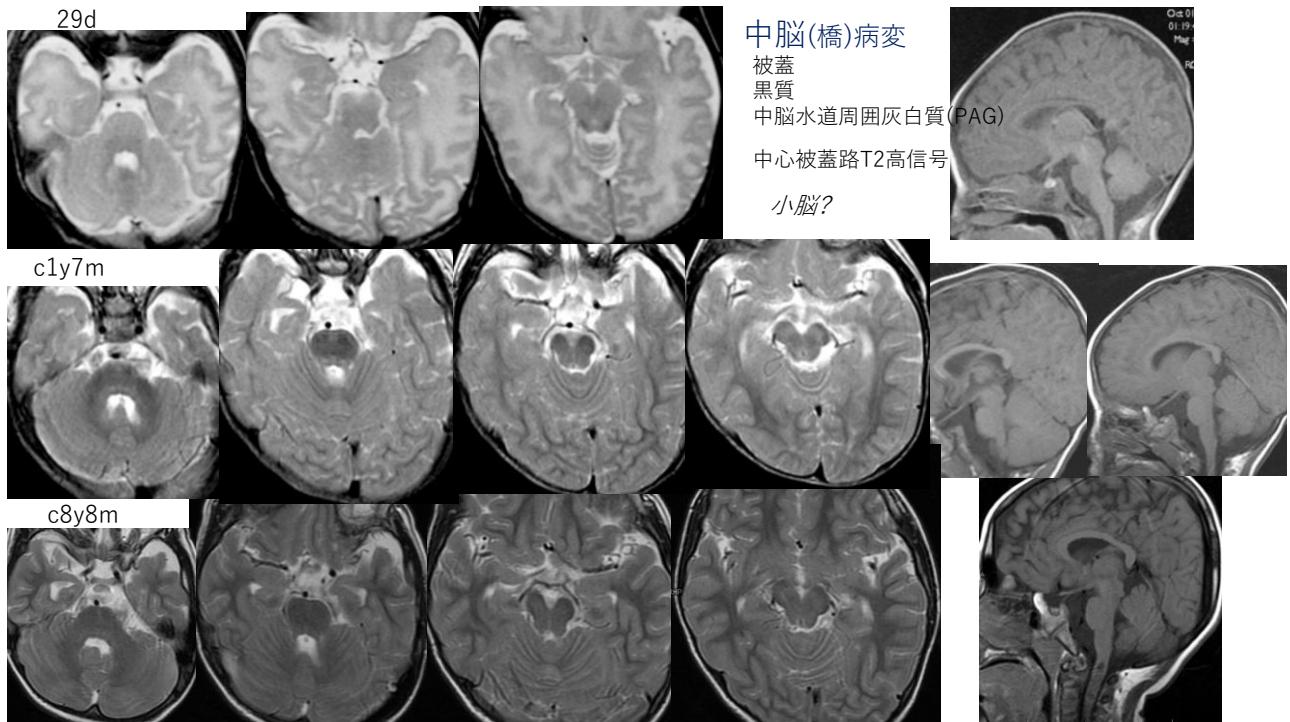


大脳白質病変



4

2



5

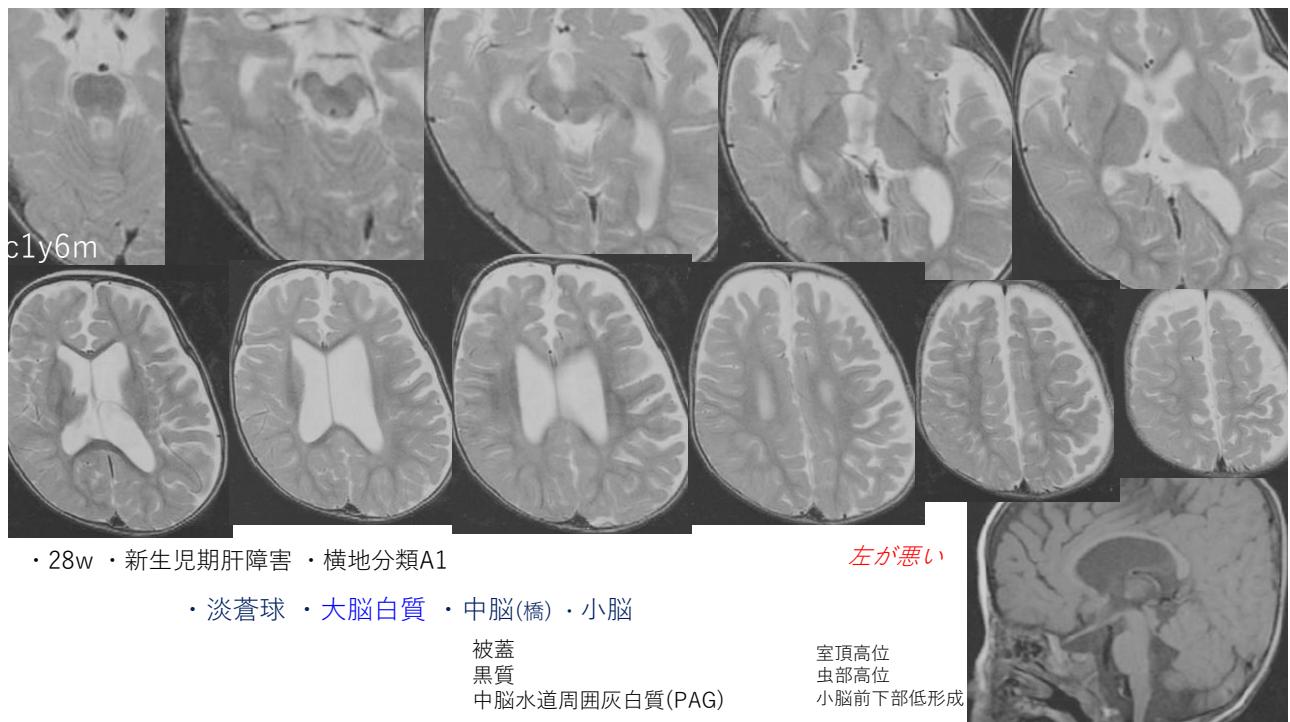


6

3



7



8



9



10



11

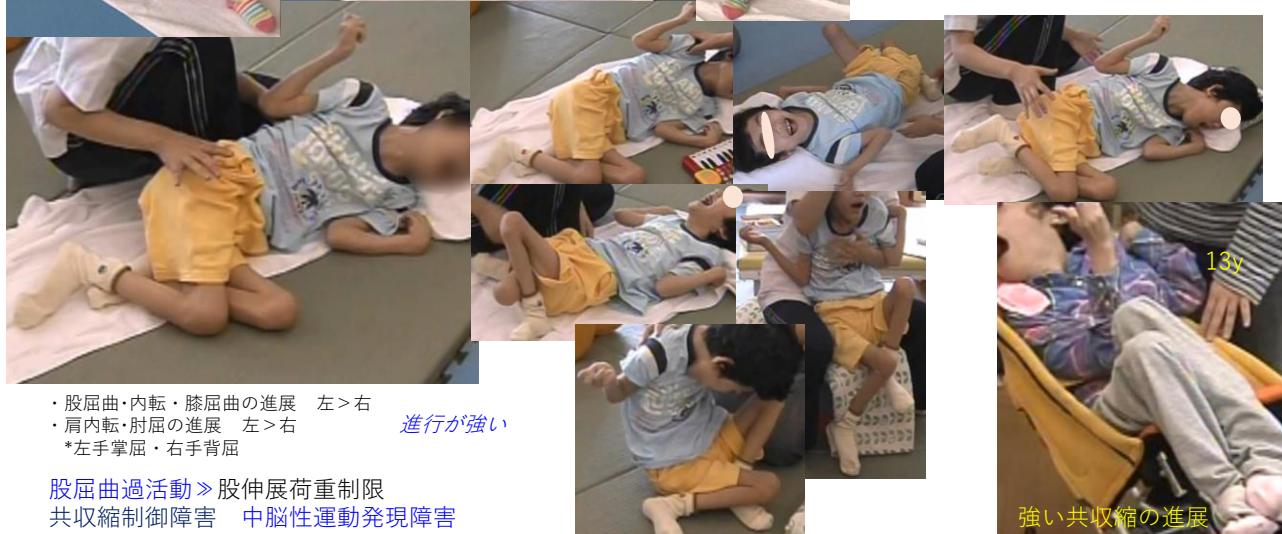


12



左が悪い

- ・左は股膝屈曲で固まる
- ・左は肩内転・肘屈・手屈で固まる
- ・右は伸展と屈曲の交代



- ・股屈曲・内転・膝屈曲の進展 左 > 右
 - ・肩内転・肘屈の進展 左 > 右
 - *左手掌屈・右手背屈
- 進行が強い

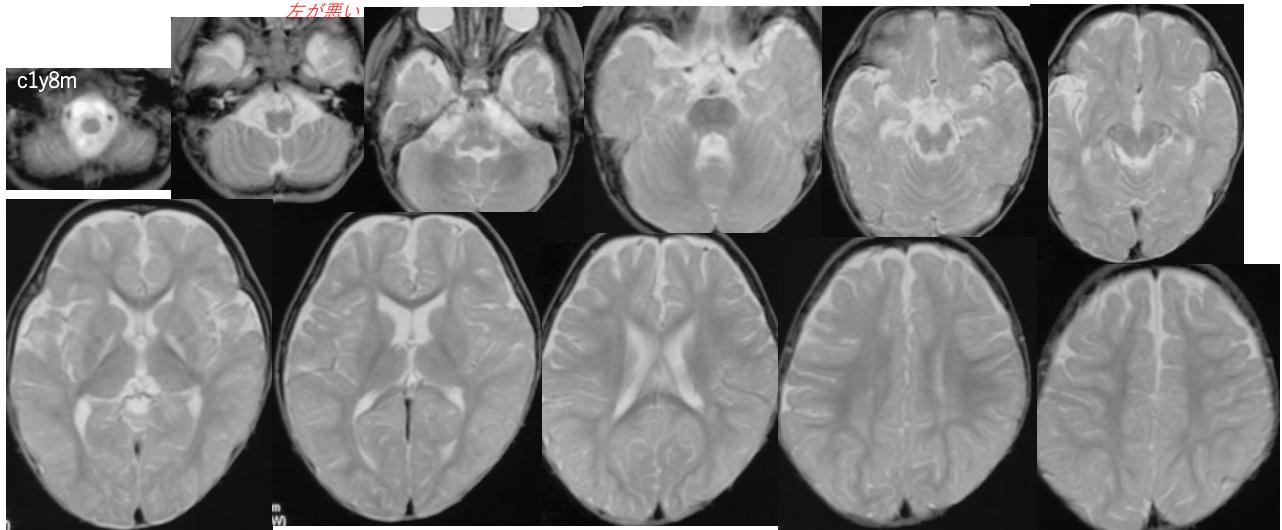
股屈曲過活動》股伸展荷重制限
共収縮制御障害 中脳性運動発現障害

強い共収縮の進展

13

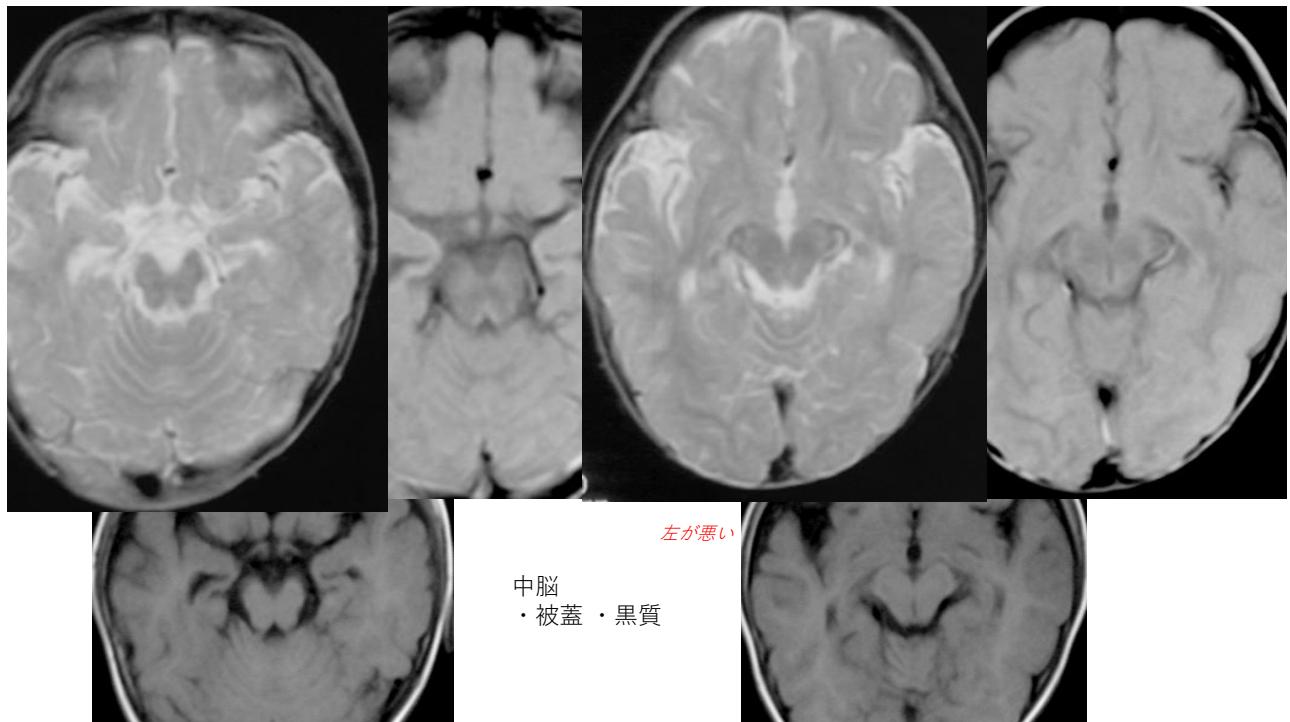
・36w, MD twin, 第1子 ・先天性cytomegalovirus感染 ・ABR無反応 ・発達年齢：1歳前半 ・3y7m, いわゆる悪性症候群→経管栄養

左が悪い



- ・淡蒼球
- ・中脳(橋)
- ・大脑白質
- ・小脳
- 被蓋
- 黒質
- 中脳水道周囲灰白質(PAG)

14



15



16



・股膝伸展で固まることが多い 左>右

・上肢は側方伸ばしで固まることが多い *左の方が退けが強い

17



股屈曲過活動・股伸展荷重制限 共収縮制御障害 中脳性運動発現障害

18

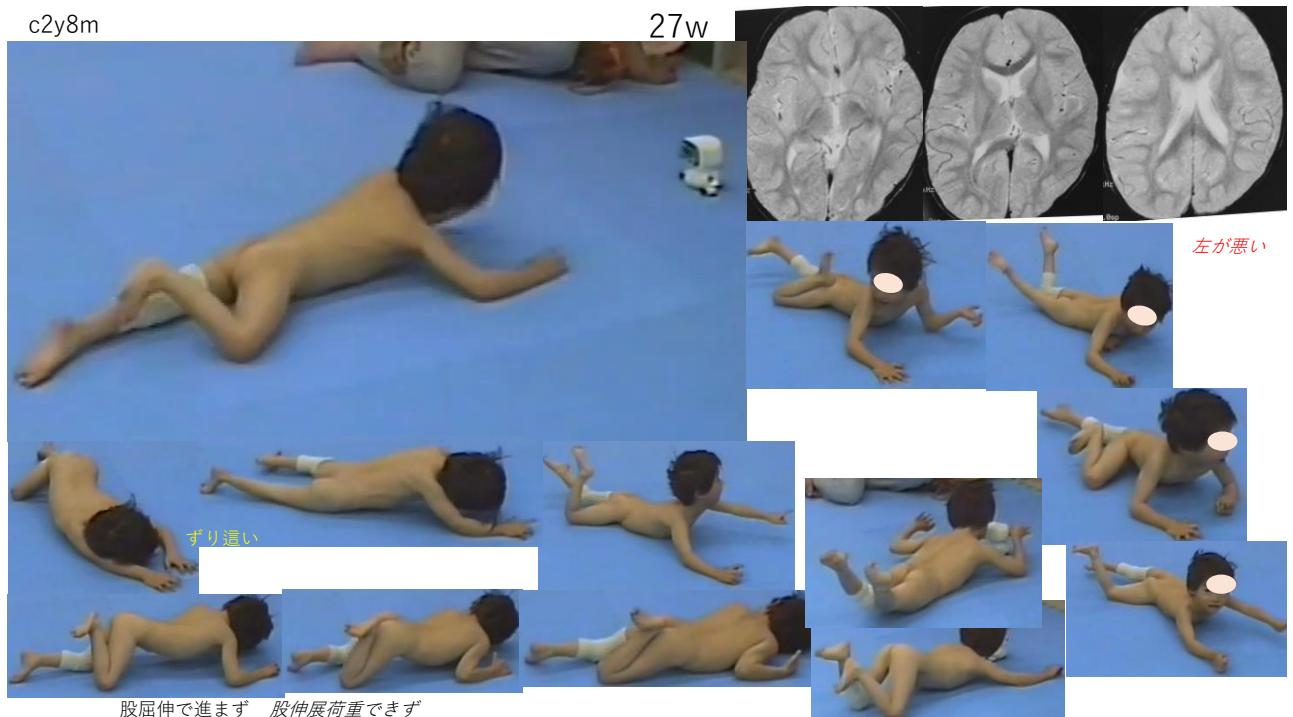


いわゆる悪性症候群後の持続的筋過活動状態

運動の質は以前と同様

- ・股膝伸展で固まることが多い 左>右
- ・上肢は側方伸ばしで固まることが多い
*左の方が退けが強い

19



20

10



21



- ・いつもブルブル震える
- ・下肢伸展位での共収縮が強い
- ・股屈曲・股外旋あり
- ・下肢屈曲への速い変換

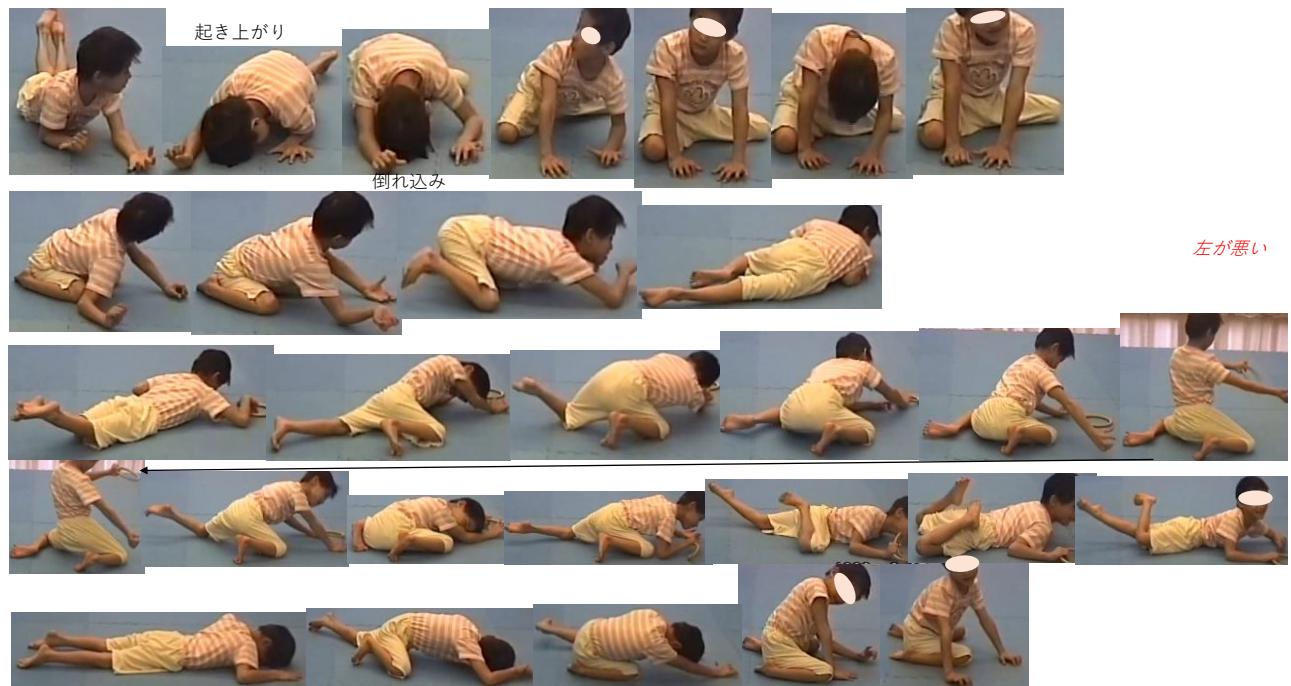
Athetoid dance

股屈曲過活動 < 股伸展荷重制限 共収縮制御障害 中脳性運動発現障害

22



23

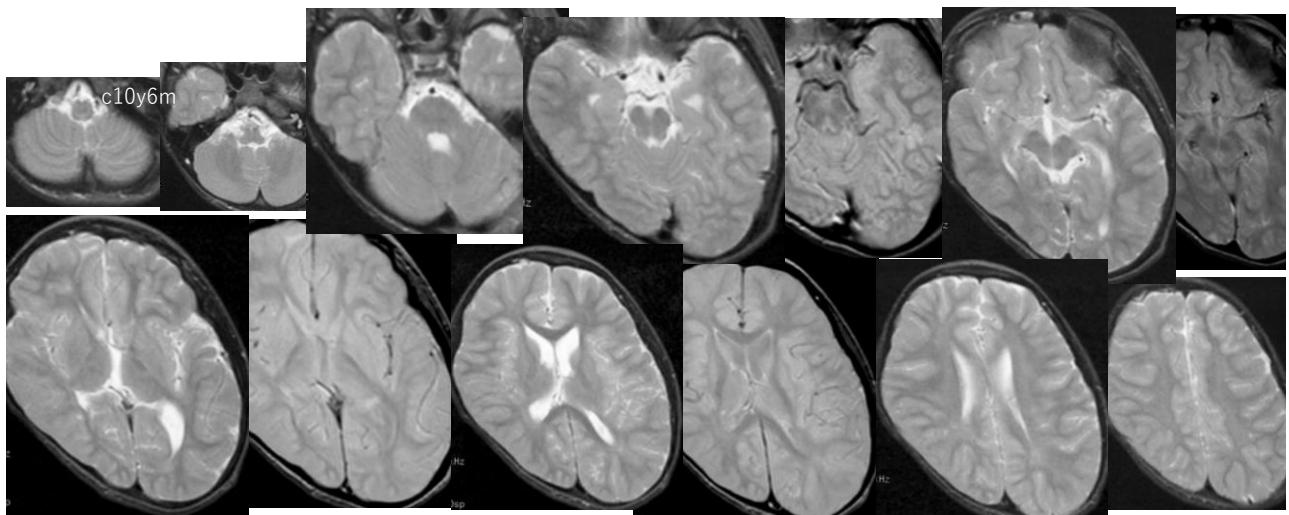


24



25

- 29w • ROPで盲 • 7mのABRは無反応(聴性行動はあり) • 横地分類A1

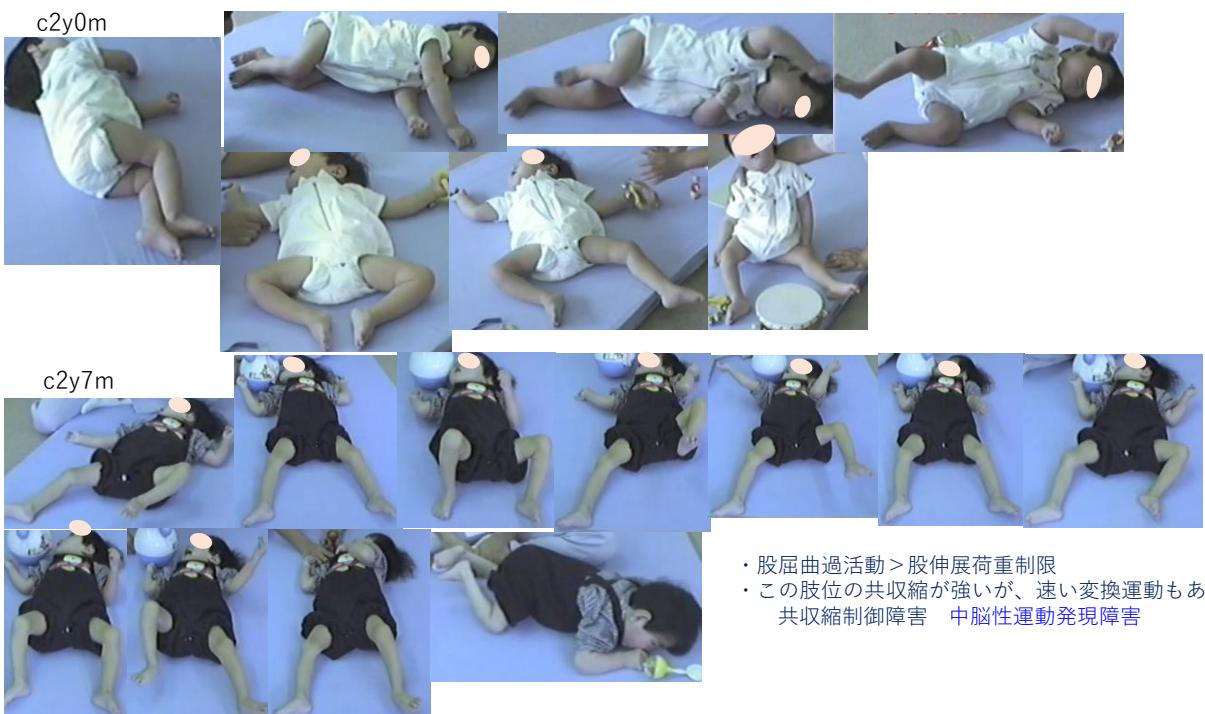


淡蒼球・視床VL核・中脳・大脳白質
被蓋
黒質

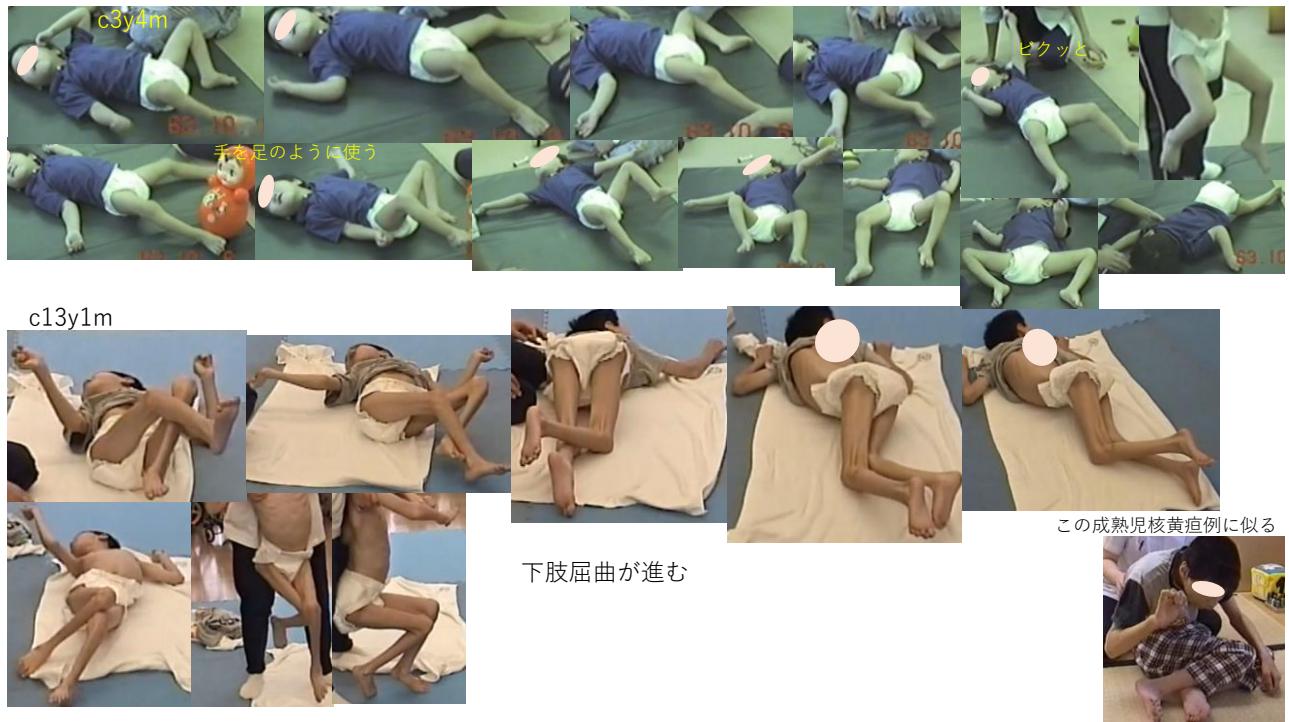
26



27

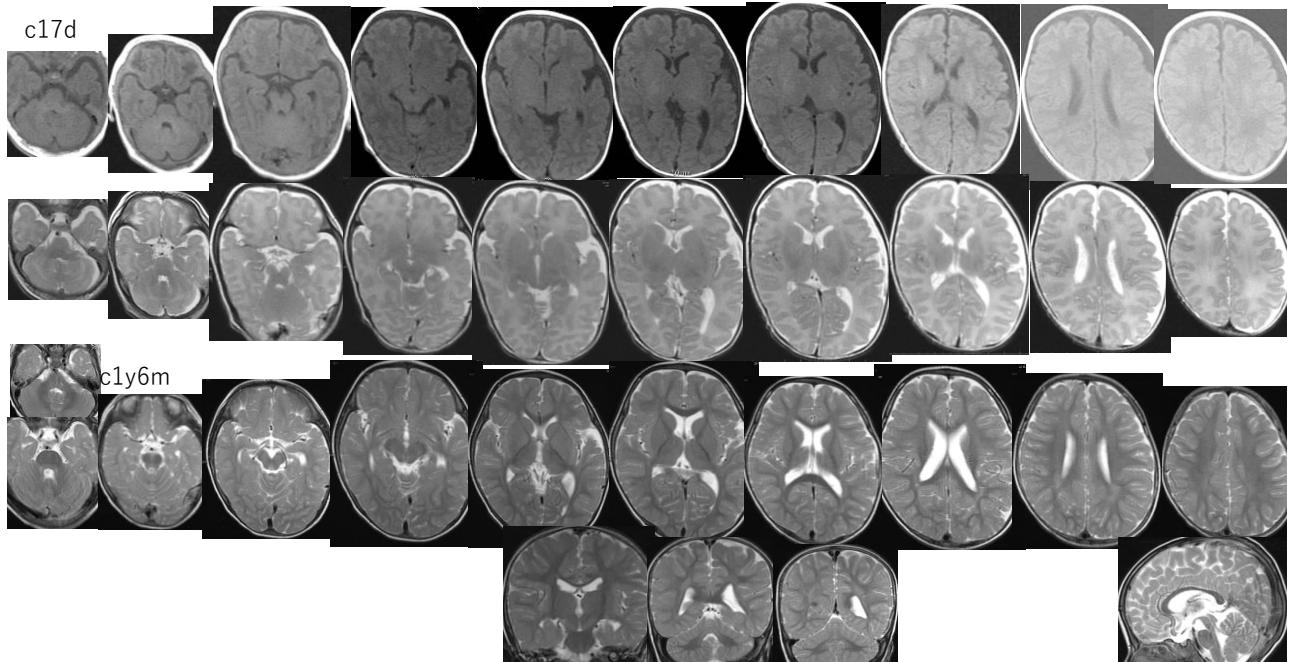


28

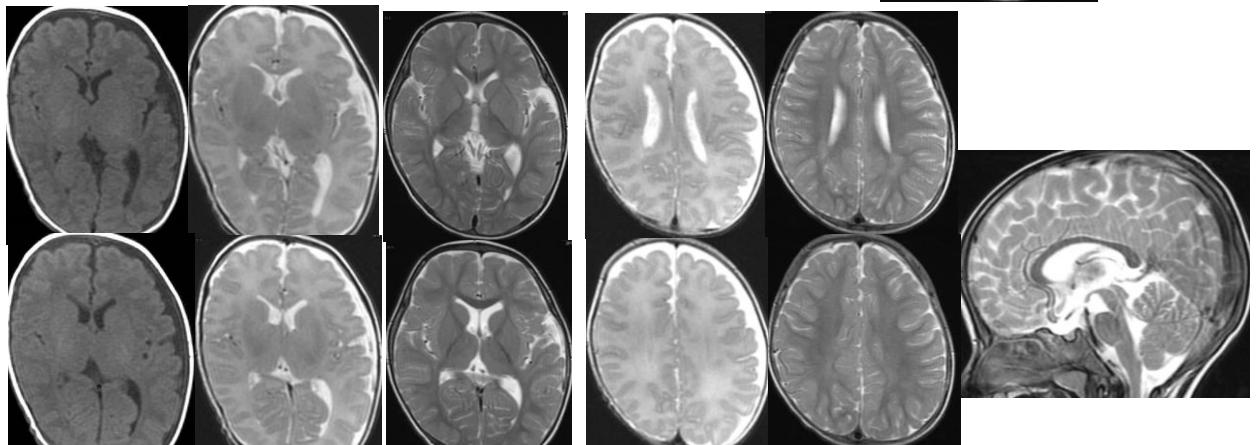
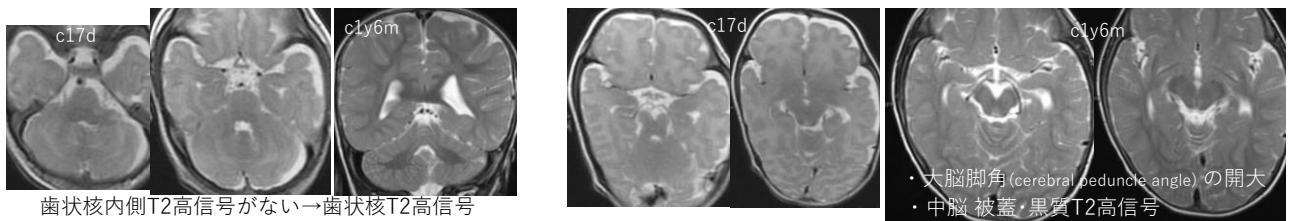


29

・26w, DD twin 第1子 ・溶血性貧血で交換輸血施行 ・ABR: V波域値上昇(40~70dB) ・聴性行動は良 ・独歩 c1y8m ・IDなし



30



右淡蒼球T1高信号→右淡蒼球のT2極弱高信号と内側部萎縮

31



32

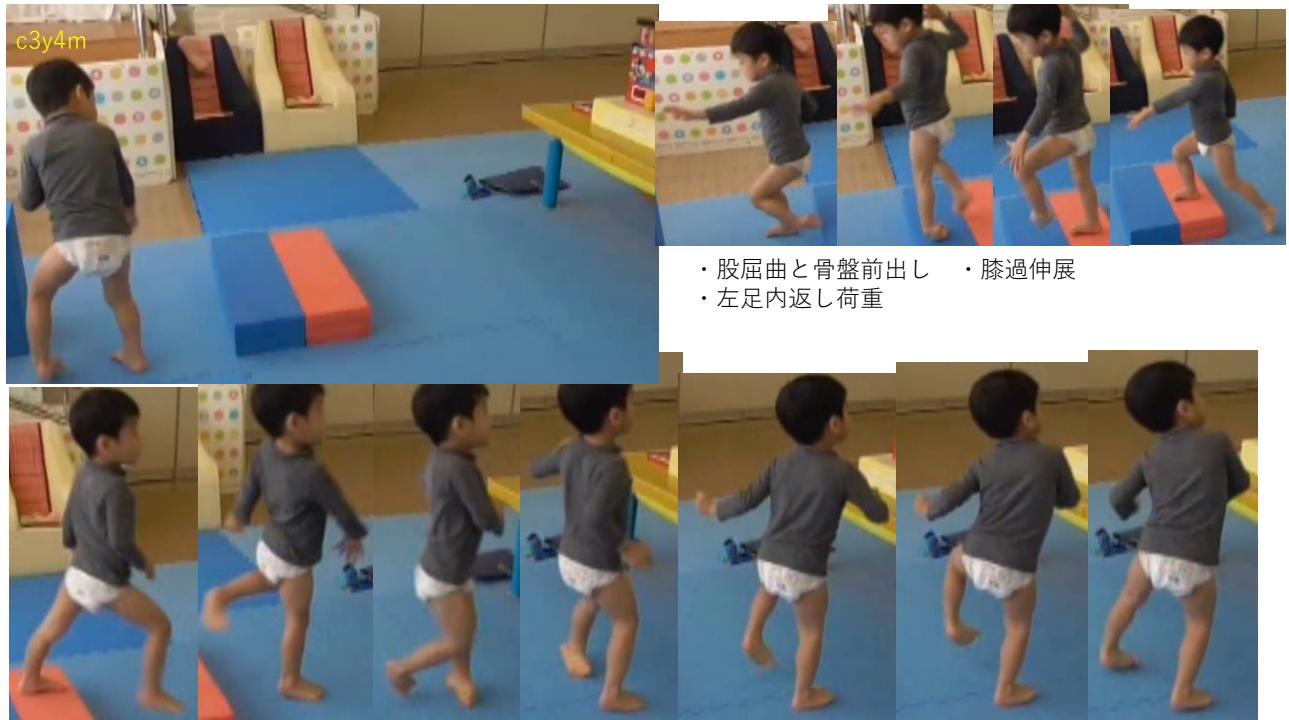


33



- 股屈強い・腰椎前弯
- 立脚時の膝反張 左 > 右
- 右の踏みしめ
- 凹足 左 > 右
- 肩の引け

34



35



- ・股屈曲と骨盤前出し
- ・膝過伸展
- ・左足内返し荷重

股屈曲過活動
股伸展荷重制限
共収縮制御障害
+ α 中脳性運動発現障害？

左1趾屈曲

36

18